

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第2章 パート5

.....

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コースン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

*「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」*

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。(黙示録 2:18)』

イエスがご自身を“人の子”でもなく“マリアの子”でもなく“神の子”と呼ぶのは、黙示録の中ではこの箇所だけで、それには理由があります。

書き留めて下さい。

イエスは、このテアテラの教会に対して、ご自身を「マリアの息子」ではなく「神の子」と言われ、また、“燃える炎”のような目、“光り輝くしんちゅう”のような足によって裁きを表現されました。

だけど、私たちはもう裁かれません。主が、私たちの罪を背負って血を流し、死んで下さったからです。私たちへの裁きを、主が負って下さったからです。

ともかくここで、イエスはご自身を「神の子」だと言われ、テアテラ教会を裁きと関連づけられました。

「わたしは、あなたの行ないとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行ないが初めの行ないにまさっていることも知っている。(黙示録 2:19)」

イエスは裁きについて告げる前に、まず、この教会の褒めるべきことを六つ挙げました。

「あなたがたは行動で愛を示し、奉仕をし、その働きは初めよりも更に良くなっている。それは素晴らしいことだ。」

どうしてこれを強調するかと言うと、今夜の学びで、皆さんの中には反感を感じる人がいるだろうからです。

けれども、次回学ぶサルデスの教会には、良いところが一つもない。とりあえず、そのことだけ覚えておいて下さい。そのうちに分かりますから。

今回は別の集団が責められることになるし、この学びが終わる頃には、みんなが同じように責められることになっています。だから学びを止めないで、最後まで続けて下さい。

もし途中で止めて次回を逃したら、全体像を見逃すことになってしまうのです。

戻りましょう。イエスはテアテラ教会の良いところを六つ挙げました。

「しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。」(黙示録 2:20)

はじめに理解しておくべき事は、このテアテラ教会は、女性によって創設された可能性が非常に高いという事です。

使徒の働き 16 章で、パウロは、ギリシャのマケドニアに行ってピリピに到着した時、川岸で腰を下ろして、集まった女性たちに話しましたが、その時に彼女たちは信じたのです。ヨーロッパで最初の信者は、女性でした。

その中の一人、ルデヤという女性は紫布の商人でした。当時、紫布はローマ帝国の中でも高価な物で、彼女はその商人。そしてテアテラの人でした。(使徒の働き 16:13 - 15)

という事で、恐らくテアテラ教会は、女性によって創設されたのでしょう。

明らかなことは、この教会は、イゼベルという女性のために苦しんでいたということです。

「この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行なわせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。」(黙示録 2:20)

イゼベルは、シドン人の王エテバルの娘で(第 1 列王記 16:31)、北王国イスラエルの王アハブの妻になりました。

オムリの子アハブは、彼以前のだれよりも主の目の前に悪を行なった。

(第 1 列王記 16:30)

この話を覚えていますか。

アハブは不きげんになり、激しく怒りながら、自分の家にはいった。(第1列王記 21:4)

そこへ邪悪な女王イゼベルがやって来て「あなた、どうしたの？」

「私の権力はどんどん大きくなっていて、全ての土地が手に入るべきなのに、ナボテが所有するあの土地だけは、私の物にならない。あいつが売らないからだ！あのぶどう畑が欲しいのだ！」

「あなたが王です。欲しい物は手に入ります。私に任せて下さい。」

それからイゼベルは、ナボテに対して偽の証言をする者たちを雇い、無実のナボテを「彼は、神と王を呪った。」と訴えました。

結果、ナボテは石で打ち殺され、アハブが欲しがった土地は、宗教裁判によってアハブとイゼベルの物になったのです。

これが今日のメインです。このことは、教会史と密接な関わりがあり、預言的に何を意味しているのかを理解することがとても重要です。

では、黙示録で登場するイゼベルとは誰でしょう。

当然これは女性で、女王イゼベルと同じようなことを言ったり行ったりして、人々を偶像礼拝・霊的姦淫に陥れました。また明らかに、彼女同様、権力、土地、お金を追い求めました。忘れてならない事は、『姦淫』の意味です。それは肉体的、性的行為だけを示すのではなく、旧約聖書で主が何度も語っておられるように、霊的には偶像礼拝を意味します。

この女性はテアテラ教会で偶像に従い、それらの神々を礼拝し、人々にも奨励しました。

「わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしない。

見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。」(黙示録 2:21 - 22)

悔い改めず、イゼベル的な霊と教えを拒否せず、それらから離れないこのテアテラ教会は、単に、この時代の一つの地方教会という事ではありません。

教会史上の膨大な数の教会のことであり、そのような教会は、キリストを拒否している罪に満ちた世界に下される神の裁き、大患難を通ることになるのです。

教会も大患難を通るのかと聞かれたら、私の答えは「本物の教会は通らない。でも、テアテラのような悔い改めのない教会は、イエスが言うように、「悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう。」(黙示録 2:22)」です。

「また、わたしは、この女の子供たちをも死病によって殺す。

こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知るようになる。  
また、わたしは、あなたがたの行ないに応じてひとりひとりに報いよう。」(黙示録 2:23)

これはテアテラ教会だけでなく、テアテラから出た者、テアテラの子供たち、彼らの子孫たちも患難と死に直面するということ。テアテラ教会自身だけでも、歴史の中のテアテラを代表する時代だけでなく、そこから分かれ出た枝、すべてに当てはまることなのです。

続けましょう。段々と話が繋がっていきますよ。

「しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、」(黙示録 2:24)

“この教え”とは“イゼベルの教え”

“イゼベルの教え”とは

「不品行を行なわせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。」(黙示録 2:20)

「しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタンの深いところをまだ知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。」(黙示録 2:24)

『サタンの深いところ』とは、バビロンの偽宗教の秘儀、奥義そのものを指す言葉です。バビロンで始まったこの偽宗教の祭司たちが、「我々だけが神秘、奥義を知っている。」と言ったことがローマに届き、そこから全世界に広がりしました。

人々は、「祭司が知っているならそれでいい。」「私たちにはわからない神秘だけど、祭司たちは理解しているのだから任せておこう。」

しかし、この神秘や奥義等々、姦淫へ導くイゼベルの教えに関わらなかった人たちには、主が「大丈夫だよ。」(黙示録 2:24)と言われます。

「ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。」(黙示録 2:25)

これは、黙示録の手紙の中で、再臨を約束する最初の御言葉です。

私の話を聞いていた人なら、ここで分かりますね。

このテアテラ教会は、大患難を通して再臨に向かうという事。

ここで、再臨の約束が彼らに与えられたのです。

「わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。」(黙示録 2:25)

「勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与

えよう。」(黙示録 2:26)

「彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。」(黙示録 2:27)

「また、彼に明けの明星を与えよう。」(黙示録 2:28)

『明けの明星』とはイエス・キリスト。

イエスの象徴は、旧約聖書では『義の太陽』(マラキ書 4:2)、新約聖書では『明けの明星』。これもまた面白いので、時間のある時に自分で調べてみて下さい。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」(黙示録 2:29)

さて、これらがどう繋がっていくのかお話しする前に言っておきたいのですが、イエスは、「テアテラの中にイゼベルの教えを受け入れていない人々がいる。その人たちには、諸国の民を支配する権威を与えよう。」(黙示録 2:26) と言いました。

旧約聖書の中で、イゼベルの目標は、『支配すること』

彼女は、自分自身と北王国イスラエルのアハブ王の権力を拡大するために結婚し、歴史上よくあるように、結婚によって国土を広げるだけでなく、宗教を混合させて、力や土地を得たのです。

イエスは言いました。

「もしあなたがたが、このイゼベルの教えを受け入れなければ、わたしと共に世界を支配する。わたしが、鉄の杖をもって支配する者であり、あなたがたも、わたしと共に支配するのだ。

しかし、あなたがたが、イゼベルの霊をもって支配しようとするなら、あなたがたは病の床に投げ込まれる。他の者たちと一緒に、大患難の中へと入っていくのだ。」

歴史的に見ると、これは、カトリック教会のことです。

もう一度言いますが、今回はプロテスタント教会について話します。

次のサルデスの教会は、イエスから一つも褒められていないのですよ。

ともあれ、これは疑う余地もなくカトリック教会のことです。

“テアテラ”の意味は『継続するいけにえ』

カトリックの原理は『継続するいけにえ』であるミサ。

それは、カトリック教会が伝統的にも歴史的にも、そして現在も堅く信じている、「聖餐と『継続するいけにえ』(ミサ)が人々に憐みと救いをもたらす」という教え。

これは、イエス・キリストが十字架の上で叫んだ事と正反対です。

「完了した！」「対価は支払われた！」「やり遂げた！」

しかし、テアテラの意味は『継続するいけにえ』

このテアテラ教会に関わった人々、特にAD600年から1500年の中世のカトリック教会は、イゼベルが土地とお金を得たのと同じように、信じられないほどの権力闘争を展開しました。

この中世の宗教裁判時代に、ローマ・カトリック教会は莫大な資産を手に入れ、今日、世界で最も裕福な存在になりました。

土地や美術館、独自の銀行システムによって、世界のどの国よりも多くの富を所有しています。

その組織は巨大で、世界中の資産の大半は、バチカンによってコントロールされています。それらは、イゼベルのそそのかしによって、この時代に入手されました。

彼らの教えは、司祭だけが聖書の神秘を語ることができるという事です。

AD1127年頃、ピーター・ウォルドが、「自分たちで、自分自身の聖書を読もう。聖書を学ぼう。」という新しい運動を起こし、その流れが勢いよく広がっていった時、ローマは彼らを激しく迫害して、250万人ものクリスチャンを殺しました。

250万人です。

皆さん、私たちが今やっているような、聖書を学ぶ人たちは、全員殺されたのです。

なぜなら、聖書は説教台に括り付けられているもの、つまり、司祭だけが読むべきもので、彼ら以外誰も読むことができませんでした。

神秘は司祭にしか理解できないとされていたのです。

しかも、バチカンのミサで使われる言語はラテン語でした。大部分の人には、ラテン語は分かりません。

こうして彼らは、ある目的のために、世界中の人々を暗闇に閉じ込めたのです。

「何を信じるかは、我々が教えよう。」「何をすべきかも、我々が教えよう。」

「罪を犯したい？いいでしょう。その前に、我々から免罪符を買えば大丈夫。」

例えば、あなたは、アルコールを飲むと分かっている、土曜日のパーティーに行くつもり。

そこで、司祭の所に行き、「土曜日はパーティーに行くので、免罪符を下さい。」と、お金を払ってそれを買って、赦しを得る。

前もって罪が赦される。でもそれには、お金が必要。

中世の時代、このような“浄罪の教え”が出回りました。

子供や配偶者、親などあなたの大切な人が死ぬと、聖人でない限り、まっすぐに天国に行けないので清めが必要だということで、キャンドルに火を灯して祈る。

この行為によって、天国までの行程を早めることができる。

現在でも、あなたの友人や家族、子供たちを清め、天国に早く送るためのキャンドルは、全て購入しなければならないので世界中で販売されており、人が、大切な誰かのために祈る度に、膨大なお金がこの組織に入るのです。

これが彼らの目的。

繰り返しますが、これは、カトリック・バッシングではありません。

先ほども言った通り、来週必ず来て下さい。次はプロテスタントだから。

くれぐれも皆さんが理解しておくべき事は、これが歴史だという事。

巨大な聖堂、想像をはるかに超える膨大な資金、財宝、お金は、この時代に、人々を暗闇に縛り付けることで築かれたのです。

司祭に罪を告白し、彼だけがそれを赦すことができるという教えは、歴史をさかのぼればバビロンから来ています。

このように、多くのことがイゼベル、テアテラから始まりました。

もしかすると、あなたも、偶像の神に捧げた物を人々に食べさせているテアテラかもしれません。「いつ、そんなことをした？」

当時の権力闘争や拝金主義は、お話ししたように、聖書を説教台に括り付けて一般のものにせず、人々を暗闇に閉じ込めることと関係がありました。

「あなたたちの知的、霊的レベルでは聖書は読めないから、補足するものを与えよう。」

それは、聖像・偶像などで、こうして、カトリック教会には多くの偶像が置かれました。

その中には、当然、イエスの像や天国の女王であるマリア像もあります。

あなたがこれらを拝んだら、それは偶像礼拝となるのです。

モーセの十戒の最初に神は言われました。

「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」(出エジプト記 20:3)

「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。

上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、“どんな形をも”造ってはならない。」(出エジプト記 20:4)

「上の天にあるもの」とはイエスやマリアのこと。

彼らのも、そして、いかなる聖徒の偶像も造ってはならないし、それらに膝を屈めてはならない。ロザリオやその他すべてが災いです。

それは偶像礼拝です。

カトリック教会は、マリアによって、天国への道を先に進むことができると信じているので、

歴史を通してずっと、マリアを商品化して販売しているのです。

このように、天の女王を拜むことは、バビロンの教えから来ていて、エレミヤ書 7 章と 44 章で、それを行なってはならない。とても危険なことだと書かれています。

これについて、イエスは何をして、何と言いましたか。

それでイエスに、「あなたのおかあさんと兄弟たちが、あなたに会おうとして、外に立っています。」という知らせがあった。(ルカ 8:20)

ところが、イエスは人々にこう答えられた。「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて行なう人たちです。」(ルカ 8:21)

無実のナボテは殺されましたが、同じように何千・何百万人ものクリスチャンも殺されてきました。

イゼベルが、ナボテに対して偽証言をさせたように、宗教裁判では、何百万人ものクリスチャンが、偽りの告発や冒涇によって殺され続けたのです。

その目的は、権力の維持、土地や資産、お金を得ること。

身を斬られるような悲しいことですが事実です。

これらのイゼベルの惑わしに染まっていない、素晴らしいカトリック教会や司祭も存在しますが、それでも、人々を知識から遠ざけ続けていることが、私にはとても引かかるのです。

私が子供の頃も、カトリックスクールに通う子供たちが近所にたくさんいて、みんないいヤツでした。でも、私が子どもながらにとっても不思議だったのは、彼らが聖書の知識を全然知らないという事。今でも、私の年代のカトリックの人たちは同じです。

御言葉を知らない。

それは、彼らに必要なのは、ただ司祭の言うことを信じて、継続していけにえを捧げ続けることがすべてだから。それで十分だからです。

勿論、良いところもたくさんあります。

「あなたの行ない、愛と信仰、奉仕と忍耐」(黙示録 2:14)

カトリックスクールやカトリック教会が提供してきた様々なことは、間違いなくイエスから褒められることであり、私たちも拍手を送ります。

偶像崇拜、権威や肩書きを得ること、継続するいけにえ、マリア崇拜、罪の告解、免罪符…まだまだ色々ありますが、イエスは「悔い改めよ。そして基本に戻れ。」と言われました。私たちがやるべきことは、たくさんあると思います。

私たちにも偶像があるかもしれません。

教会堂や教会の組織、ある人物、兄弟姉妹たちを見て、「私の希望を全てこれに託そう。」私たちも簡単に、イゼベルの惑わしである偶像礼拝・姦淫に陥るのです。

主を愛し、主のそばにいて、主の導きを得る代わりに、偶像に頼ってしまう。

神秘や奥義を求める余り、聖書を説教台に括り付けてしまう。

「私は聖書教師だから、これらのことは知っている。」「あなたがた凡人には、聖書の奥義は理解できない。」「我々祭司だけが神学の背景を把握していて、我々だけがギリシャ語・ヘブル語を知っている。」

私が心配するのは、今でも時々、神学や言語を振りかざして、「あなたには理解できない。」と言う人がいること。

皆さん、ギリシャ語やヘブル語は言語です。

新約聖書はギリシャ語、旧約聖書はヘブル語で書かれました。

勿論、それらの言語に通じていると、聖書理解に役立ちます。

でも私が思うに、ギリシャ語もヘブル語も下着のような物で、サポートはするが、絶対には出てこない。

聖書は、あなたや私のために書かれたもの。

聖書は、その辺の男性と女性のために書かれたもので、誰にも「あなたには、聖書の奥義、深さ、神の御心は分からない。」と言わせてはならないのです。

なぜなら、「我々だけ、祭司だけが知っている。」と言うことは、『サタンの深いところ』だから。

聖書は、凡人のために書かれたもので、皆さんや私のためにあるのです。

神は、宗教ではなく、あなたが神と直接繋がることを望んでおられます。

“この聖職者”でもなく“マリア”でもなく、他の何ものでもなく、ただ素直に主だけを見る。

「主よ。あなただけです。あなたが私の内におられ、事はあなたが成就されました。

もう、継続していけにえを捧げる必要もなく、対価は支払われ、私は自由です。

だから、祭司や組織を通さなくてもよいのです。

理解できるかできないか、心配もしません。

なぜなら、あなたが私の内に住んでおられるから。」

主は素晴らしいお方なので、私のために指導してくれる師も与えて下さいます。

それでも私は、それらに頼らず、希望を置くこともせず、「主よ。あなただけです。」

何としても偶像に対して **NO!** と言えるように。

宗教の形式に **NO!** と言う。

そうでなければ、魅惑的なイゼベルの惑わしが、実際に存在したテアテラ教会や、預言の中

のテアテラ教会のように、皆さんと私を滅ぼしてしまうのです。

どうか主が知恵を与えて下さるように。

私たちが、イエスだけにフォーカスし続けることができるように助けて下さい。

主が私たちを基本に留め、イゼベルの惑わしから守って下さるように。

イエスの御名によって。アーメン。

あなたがたがよく見て知っているとおりに、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者—これが偶像礼拝者です。—こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。

むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行ないのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。

ですから、彼らの仲間になってはいけません。

あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。

光の子どもらしく歩みなさい。—光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。—  
そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。(エペソ 5:5 - 10)